

市政ニュース

安倍首相夫人の昭恵さんが豊岡市に来訪 「環境と経済の共鳴」を視察

12月16日、安倍晋三首相夫人の昭恵さんが来訪し、本市の「環境と経済が共鳴するまちづくり」を視察しました。

神鍋高原で炭焼きをしている田沼光詞さんは、白炭の性質や炭の生産が間伐の推進と建築廃材くずなどの減少につながることを説明しました。

次に、コウノトリ育むお米の生産者・青山直也さんの神鍋高原の田んぼを訪問。青山さんは、なぜ、手間の掛かるこの米の生産にこだわるのかなどを語りました。

午後は、コウノトリ文化館（祥雲寺）で、中貝市長がコウノトリ野生復帰事業の紹介をし、コウノトリ育むお米の生産者の「悦喜さんと根岸謙次さん」が、田んぼの生物の数が桁違いに増えたこと、水の管理の苦労などを話しました。地場産業「かばん」の視察では、鞆デザイナーの由利佳一

郎さんと交流。

最後は、コウノトリの飛来で地域が変わったハチゴロウの戸島湿地（城崎町今津）と田結湿地を視察しました。

昭恵さんは「自然環境を守りから教えられています。人と自然が共生している風景に癒やされました。環境と経済の共鳴やコウノトリの野生復帰の取組みで、豊岡市は世界のモデルになれます。もっと、積極的に情報発信をしてほしいです。このような地域の特性を生かした取組みが進めば、全国が変わると思います」と感想を述べました。



▲コウノトリを舞う空に感動する安倍昭恵さん(右)

「コウノトリ育む農法を柱とした有機農業の推進に関する協定」調印式の開催

12月20日、豊岡市とみのる産業株式会社（本社・岡山県赤磐市）は、コウノトリ育む農法の一層の向上を図るため、栽培技術支援等を連携して推進する旨の協定を締結しました。

コウノトリ育む農法（無農薬栽培）のさらなる推進には、雑草対策に非常に手間が掛かることや収量が少ないことが懸案事項となっています。今回の協定が、除草対策などの

課題解決につながることを期待しています。当日は、実証ほ場で使用する農機具などの展示・説明も行われました。



▲みのる産業株式会社代表取締役の生本一さん(右)と中貝市長

市街地循環バス「コバス」Bルート 新車両の運行を開始

12月16日、市街地循環バス「コバス」Bルートの車両を更新しました。

車体色は清らかな豊岡の空をイメージした「ライトブルー」で、車体にはイラストレーター黒田征太郎さんが描いた絵をラッピングしています。

【車両の特徴】
1 ノンストップ（低床型）バスで、乗降が楽にできます。
2 スロープ板を装着することで、車椅子の乗降もでき



▲中貝市長(左)から運転手に車両キーの贈呈

3 アイドリング・ストップシステムを搭載し、排出ガスや騒音を抑えます。

「主な市政の動き」

- 12月
 - 13日・「ミシユラン・グリーンガイド・ジャポン」掲載記念「豊岡・城崎温泉」の魅力伝えるソワレ(夜会)開催
 - 16日・内閣総理大臣夫人 安倍昭恵さん豊岡市視察「コバス」Bルートで新車両運行開始
 - 17日・城崎国際アートセンター「ブレ事業」平田オリザ「まちかどリーディング」と「平田オリザ小学校演劇モデル授業」(18日)
 - 18日・第15回人間サイズのまちづくり賞「まちなみ建築部門」で豊岡市役所が知事賞受賞・表彰式伊豆大島等台風26号災害義援金送金
 - 20日・コウノトリ育む農法を柱とした有機農業の推進に関する協定締結
 - 22日・韓国大学生等の環境学習受入
 - 27日・市役所仕事納め式
 - 6日・市役所仕事始め式
 - 12日・豊岡市賀詞交換会
 - 豊岡市成人式

環境経済事業のさらなる拡大のために

「HPOプロダクシ2013」に主展

12月12日から14日まで、東京ビッグサイト(東京都)で、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」が開催され、豊岡市は、株式会社カネカとともに出展しました。本市ブースでは環境経済事業に取り組む市内企業6社が製品の展示、説明を行いました。約千人が足を止め、説明を聞き、23件の商談に結びつ

きました。また、主催者がお薦めブースを案内する「会場内エコツアー」の訪問先に豊岡市ブースが選ばれました。このツアーで本市ブースに来訪した約140人には、出展企業の紹介だけでなく、コウノトリ野生復帰や環境経済戦略などの本市の取組みについても、お知らせしました。



▲豊岡市ブースの様子

城崎国際アートセンタープレ事業

「平田オリザまちかどリーディング」と「平田オリザ小学校演劇モデル授業」開催

平成26年4月にオープン予定の城崎国際アートセンタープレ事業として、「平田オリザまちかどリーディング」を11・12月に開催しました。

12月は、川上弘美さんの作品「クリスマス」を、女優の兵藤公美さんが、登場人物を個



▲作品を読む兵藤公美さん

性豊かに表現し、大人のクリスマスを演出しました。

第3回は、12月17日に城崎町のホテルで、第4回は18日に同町のお寺で開催し、両日とも、平田オリザさんと中貝市長がアフタートークを行い、同アートセンターの展望などを語りました。

また、18日には、「平田オリザ小学校演劇モデル授業」を城崎小学校で、同校6年生を対象に実施しました。まずは、アートセンターの地元の子ど



▲平田オリザさんの演劇授業を真剣に受ける児童たち

もたちに、演劇を通して、豊かな表現力やコミュニケーション力を身につけてほしいと催したものです。児童らは、自分たちで脚本を作り、配役を決めて演じていました。

中貝市長の徒然日記 75

歩いて暮らすまちづくり

「歩いて暮らせる」ではありません。「暮らす」です。健康は、自分のことです。自分のために歩くのだ、と覚悟を求めて「歩いて暮らすまちづくり条例」を制定しました。

私も公用車の迎えを断り、朝50分の道を歩いて出勤しています。走ったり泳いだりして暮らす人も、OKです。

それは、筑波大学の久野謙也准教授(当時)との会話から始まりました。健康づくりの大切さを懸命に訴えてきたが、事態が一向に動こうとしない、と言う先生に、こう答えました。「日本をいきなり変えようとしても、大きすぎて絶望的です。県でも同じです。でも、

市町村なら、トップがその気になれば変えることができます。豊岡が変わり、三条市が変わり、見附市が変わる。結果を出して、その総和として日本が変わる。これならできます」。

平成21年11月、9人の市長、4人の研究者が集まり、健康

政策の首長研究会がスタートしました。①科学的な証拠に基づいて進める②健康に心のない大多数の人たちを巻き込む③歩道や美しい景観、公共交通があれば人は歩く。よって、都市政策も重視する一を柱にしています。今では、全国19人の市町長が参加し、研究者、企業、国の省庁も一緒になって健康政策を研究し、実践しています。

昨年末、市の部長から報告を受けました。「桑野本区の住民が変わってきている、表情や元気が違っていると、森本診療所の医師から聞きました」

桑野本は、健康づくりモデル地区の一つです。うれしい報告でした。村人が出会うと歩数計を見せ合うのがあいさつ代わりだとか。健康づくりの成果は、数値にも表れています。先日、円山川の堤防を歩いていると、後ろから追いついてきた男性が話し掛けてきました。「ラジオで市長が歩こう」と話しているのを聞いて、私も始めました。毎日1時間歩いて快調です「わお!」

歩ける人、歩くべし。です。